

ケアマネジメント実践ネットワーク メールマガジン Vol.4

2023/8/1 配信分



今回のメインピック

適切なケアマネジメント手法実践研修における事例の紹介 part 3

性別	女性	認定区分	要介護1	年齢	74歳
居住形態	集合住宅、独居世帯	主な疾患	認知症		
利用サービス	デイサービス（週2回）				

この事例を選定した理由：他者との交流のない利用者が楽しめる活動を見つけたい

独居で近所に知り合いもなく、他者との交流がない。以前は散歩や買い物等の日常的な活動もあったが、最近では意欲の低下も進み、閉じこもりがちになっている。主介護者の次女が仕事の合間に訪問するなど、次女の負担も大きくなっている。生活リズムを整え、楽しめる活動を見つけられるような支援をしたい。

研修開始時における事例の課題：食事・水分量の摂取不足、主介護者の負担の増大

認知症の悪化により、料理等も難しく、食事量や水分摂取量にも影響が出ている。また、デイサービスに行きたくないという思いもあり、次女の頻繁な訪問が必要な状況だが、口論になることも多く、次女の負担も大きい。栄養状態の悪化がストレスに繋がっていることも考慮し、栄養状態の改善、次女のストレスの軽減を検討したい。

実践研修で着目した基本ケアの項目と実際の取り組みと変化

🏠項目20 フレイル予防のために必要な食事・栄養の確保の支援

自炊が難しいため、配食サービスを利用していましたが、量が多い、味に飽きた、という理由で辞めてしまった。ヘルパーによる自炊の支援も検討したが、他人が訪問することに抵抗感があり実現しなかった。一方で、配食をやめたことで、コンビニやスーパーなどに買い物に行く機会が増えた。食事量や栄養バランスの面では課題があるが、体重・血圧は安定しており、本人の活動・楽しみに繋がっているため、今後は買い物続けられる身体能力の維持を支援したい。

🏠項目35 喜びや楽しみ、強みを引き出し高める支援

興味のあることを聞き取ったところ、歴史、図書館等が挙がった。近くに図書館があるが、1人で出かけると道に迷い帰宅できなくなる等の不安があり、図書館へ行けない状況である。図書館まで連れていってくれるボランティアを探すことを検討したい。また、デイサービスの近所には史跡や神社が多くある。現在は、デイサービスに行きたくないという思いがあるが、デイサービスで散歩の時間を増やし、史跡巡りをしてもらうことで、デイサービスを楽しみな時間に変えられるようにデイサービスの職員と相談した。

🏠項目42 本人や家族等に関わる理解者を増やすことの支援

薬の管理や生活全般の支援を次女1人で行っており、負担が大きい状態であった。そこで、次女と一緒に地域包括支援センターの認知症地域支援推進員に相談に行き、今後も継続的に連携することになった。また、県外在住の長女にも連絡を取り、電話や帰省時などの支援の機会を増やしてもらった。

「適切なケアマネジメント手法」基本ケアに関する資料は下記HPから閲覧できます。

URL：<https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/caremanagement/04/>

▼冊子



▼項目一覧



令和4年度の「適切なケアマネジメント手法」の普及活動のご紹介②

令和4年度に手法の全国的な展開に向け、以下の普及活動を実施しました。

④ケアマネジャー向け普及状況調査

手法の現在の普及状況や実践での活用状況を全国のケアマネジャー1,000名を対象にweb調査。手法を知る回答者（手法を「よく知っている」「概要を知っている・聞いたことがある」と回答）は約7割、その中で「適切なケアマネジメント手法の手引きを見たことのある方が約7割であった。手法を知る回答者の内、約3割の回答者はケアマネジメントプロセスや自己点検等で手法を活用していたが、約2割の方は手法を実践で活用したことはない」と回答した。（詳細な調査結果は報告書に掲載）

⑤他の職種向けの普及促進策の検討

手法を自治体職員やケアマネジャー以外の専門職に説明する機会を見据え、簡潔に説明できるような概要資料を作成。（概要資料は報告書に掲載）

具体的な普及活動の内容や手引きは下記QRコードよりご覧ください。

▼報告書



▼手引き



適切なケアマネジメント手法検討委員インタビュー動画紹介

「在宅で暮らす人たちのためのケアマネジメント～在宅医療の視点から～」

一般社団法人全国在宅療養支援医協会 会長

新田國夫 先生

新田國夫先生の動画では、在宅で暮らす人たちのケアマネジメントについて、在宅医療の視点からお話いただきました。

「治す医療」から「治し支える医療」へ変化する中で、利用者が充実した生活を送るためには、医療面だけでなく、生活や介護についても考慮することが重要となっています。ケアプランは、医療、介護、生活面を総合的に考えますが、その中でも「生活」に重点を置き、利用者の「生活障害」への対応を検討していくことが求められています。在宅医療の専門職と連携し、利用者の生活を考える際に役立てていただけますと幸いです。

動画の視聴はこちらから！



在宅で暮らす人たちのための
ケアマネジメント～在宅医療の視点から～
一般社団法人全国在宅療養支援医協会の会長 新田國夫

このメールマガジンで取り扱って欲しいトピックを募集しています！

このメールマガジンでは、今後も「適切なケアマネジメント手法」などケアマネジメントに関する情報を発信していきます。ケアマネジメント実践ネットワーク会員の皆様は、このメールマガジンで取り扱って欲しいトピック、提供して欲しい情報などがございましたら、下記のお問い合わせ先までメールにてお気軽にご連絡ください。

次回の配信日は**2023年8月22日（火）**を予定しております。



お問い合わせ先

株式会社日本総合研究所 創発戦略センター ケアマネジメント実践ネットワーク事務局 辻本、山内

E-mail

100860-caremaneML@ml.jri.co.jp

※事務局内での管理・共有のため、メールでのご連絡をお願いしております。